

九州ルーテル学院大学

Teaching Portfolio

2025



所 属： 九州ルーテル学院大学人文学部心理臨床学科

名 前： 古賀香代子

作成日：2025年4月20日

九州ルーテル学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

教員氏名：古賀香代子

所属：人文学部心理臨床学科 臨床心理学専攻 /人文学部大学院研究科

1. はじめに

人文学部心理臨床学科と大学院研究科で公認心理師養成を担当しています。公認心理師、臨床心理士、精神保健福祉士の資格を持ち、長年医療・保健・福祉分野の現場で仕事をしてきました。初めに携わった仕事は児童相談所の乳幼児の発達相談、乳幼児発達健康診断の心理相談、療育の心理アセスメント等でした。精神科病院に就職した後は、心理業務一般に加え、チーム医療によるリハビリテーションの中でデイケア、SST等を担当しました。児童思春期外来ではプレイセラピーや発達障害の家族会等を担当しました。精神保健福祉士の資格を取得した後、障害者自立支援法の成立に合わせ、地域生活支援センター、障害者就業・生活支援センターの長を歴任し障害者ケアマネジメントの手法による相談支援事業とその指導を行ってきました。この間、精神障害長期入院者退院促進事業熊本県コーディネーターをはじめ、精神障害者当事者、家族会、作業所、就労等への支援、玉名市や長洲町等の福祉計画策定への参画など広く有明圏域において、仕事を展開しました。

その後再び医療現場の心理業務に移り、国立病院機構菊池病院の心理療法士主任として勤務しました。精神科一般外来、ものわずれ外来、入院病棟において心理検査や心理療法、治験、精神鑑定の心理検査補助、医療観察法関連業務等を行い、東日本大震災では琉球・菊池病院の心のケアチームとして岩手県に派遣されました。2015年、大牟田市の不知火病院に移り、主にうつ病の治療に特化したストレスケア病棟のリワークグループを多職種の中の心理職として担当しました。菊池病院と不知火病院ではマインドフルネスによる治療グループを立ち上げに参画したことが私の心理療法の効果に関する認識を大きく変えました。これは現在の最も大きな研究の関心になっています。

心理療法について、現在の関心はソマティックと呼ばれるもので、身体とこころのつながりに興味があり、研修を受けています。終了した主な研修は以下のとおりです。

精神分析セミナー（福岡精神分析インスティテュート主催）2回受講

ハコミセラピー総合トレーニング修了、サーファティケーション フェーズ スチューデント（CERTIFICATION PHASE STUDENT）

センサリーモーターサイコセラピートレーニング・レベルⅠ修了、レベルⅡ受講中

2018年より九州ルーテル学院の専任教員となり現職です。2019年公認心理師資格取得後は、ストレスチェック制度の実施者研修を修了しました。また、2025年4月より認定公認心理師を取得しています。大学では、私の心理臨床と福祉のさまざまな分野の体験を次の世代に伝えていきたいと考えています。

2. 教育の責任

2024年度は大学院研究科科長として大学院教育の統括をしています。大学院は2022年度より公認心理師養成を開始したため、それまでの夜間開講から昼間開講になり、さまざまな教育環境の

整備を行いました。専門職に必要な質の高い講義や実習体制の整備、修士論文指導と提出日等の見直し、外部のスーパーバイズを受ける制度、国家資格試験の受験対策等、新体制を整えてきました。こころとそだちの臨床研究所の大学附置施設カウンセリングルームを大学院の公認心理師養成課程に必要な学内実習施設として位置付けました。2021年度より準備し新体制で大学院生の実習を行う体制を整えることができました。こころとそだちの臨床研究所はこのほか、地域との連携による活動を展開しており、研究所長としての役割を担っています。大学院の公認心理師カリキュラムを2023年度に完成させ、本学の大学から大学院まで一貫した公認心理師養成のための教育を行うことになりました。

大学においても公認心理師カリキュラムを中心に心理演習Ⅱ、心理実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを受け持っています。心理実習Ⅱ福祉領域を主担当者としています。実務系教員として、対人援助職の基本的な姿勢を大事にして、実用的で現場から求められる人材を育成したいと考えています。私はこれまでの豊富な経験から得た技術を学生に伝え、身に付けていくような教育を行います。専門的な知識の獲得と合わせ、実習・演習を通した学びを重視します。実習においては地域の保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野の施設等との連携を充実し、学生の実習の質の向上に努めていきたいと考えています。

(1) 授業科目の担当

2022年～2024年度の3年間は以下の表の科目を担当している。

科目名	開講年度時期	履修者数	備考
精神分析学	2022年～2023年	70名程度	心理専門選択
公認心理師の職責	2022年～2023年	100名程度	心理専門選択
福祉心理学	2022年～2023年	120名程度	心理専門選択
心理演習Ⅱ	2022年～2024年	45名程度	心理専門選択
心理実習Ⅰ	2022年～2024年	60名程度	心理専門選択
心理実習Ⅱ	2022年～2024年	60名程度	心理専門選択
心理実習Ⅲ	2022年～2024年	60名程度	心理専門選択
心理臨床の基礎	2022年～2024年	180名程度	心理専門必修
特別研究	2022年～2024年	16名	心理専門必修
卒業研究	2022年～2024年	15名	心理専門必修
心理療法特論Ⅱ	2022年	5名	大学院
福祉分野に関する理論と支援の展開	2022年～2024年	15名	大学院
心理支援に関する理論と実践Ⅱ	2022年～2024年	15名	大学院
心理実践実習Ⅰ	2022年～2024年	15名	大学院
心理実践実習Ⅱ	2023年～2024年	10名	大学院
心理実践実習Ⅳ	2023年～2024年	10名	大学院
心理実践実習A	2022年～2024年	15名	大学院
心理実践実習B	2023年～2024年	10名	大学院
研究指導	2022年～2024年	4名	大学院

■ 主要授業科目

< 心理演習Ⅱ >

大学の公認心理師カリキュラムの演習科目です。コミュニケーションについてロールプレイを中心に公認心理師に必要な技術を学びます。この科目は、以下の指針に沿った内容を盛り込んでいます。

*「心理演習」に含まれる事項

知識及び技能の基本的な水準の習得を目的とし、次の(ア)から(オ)までに挙げる事項について、具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイ)を行い、かつ、事例検討で取り上げる。

- (ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の習得
 - (1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援等
- (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
- (ウ) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ
- (エ) 多職種連携及び地域連携
- (オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

2名の教員で担当してきましたが、2025年度は3名で担当します。前半はカウンセリングに必要な技術について教科書の講義と基本スキルのロールプレイ、後半はさらに実践的にOSCEの手法を取り入れ練習します。私は前半の主担当で前半授業をコーディネートしています。後半はOSCEが中心でロールプレイの相手役を演じ、できる限り現実に近い場面を作るよう工夫をします。これにより臨床場面に必要なコミュニケーション能力や立ち居振る舞いに職業倫理等も含め体験的に身に付けていきます。実技試験で評価を行い、その結果をフィードバックすることで個別対応を丁寧に行い、個々の能力の向上を目指しています。

< 心理実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ >

大学公認心理師養成のための専門科目で複数の教員で担当しています。心理実習Ⅰは教育と産業、心理実習Ⅱは福祉と司法・矯正、心理実習Ⅲは医療保健と5領域の実習を行います。公認心理師が働く現場で、実際の仕事を見学体験します。私は、実務経験を活かし、これらの実習が円滑に行われるよう実習施設との調整や学生配置、学生への指導に関わっています。

実習に向けて事前学修では実習先の概要、そこで行われる心理支援の内容などを調べ、準備をします。専門知識だけではなく、社会人基礎力や職業倫理も重要で、準備の段階から繰り返し指導を行っています。実習中は巡回指導を行い、実習中の様子を確認するとともに、その場で必要な助言指導を行います。

学生にとって実習はここまで机上で学んだ知識と実際に行われている心理支援をすり合わせていく作業になります。机上の学びがそのまま現場につながっていくこともありますが、理解していたものとはかけ離れていたり、あるいはなんとなく違っていると感じたりすることもあります。実習を通して再度振り返り、知識を整理し、また新たな気づきもあり、学生はこのような体験をしながら公認心理師の専門性を学んでいくことになります。このような学びについて、しっかりとサポートをしていきます。

< 心理実践実習Ⅰ、心理実践実習Ⅱ・Ⅳ >

大学院の科目です。学内実習の通年科目で、複数の教員で担当しています。

「心理実践実習Ⅰ」は学内実習施設「カウンセリングルーム・ジャニス」の運営に関わるための準備やカウンセリングの基礎などを実際に体験しながら学びます。「心理実践実習Ⅱ」と「心理実践実習Ⅳ」は事例

検討を中心に行います。ここでは、心理臨床の基本となる実践力を身につけていきます。教員はそれぞれの臨床経験から助言を行い、基本技術のみならず即戦的な力が身につくよう指導を行っています。

<心理実践実習 A、心理実践実習 B>

大学院の科目です。学外実習の科目で、複数の教員で担当しています。大学とは異なり、ケース担当時間が必要でより実践的な実習を求められています。私は実践実習 A の福祉領域を主担当として受け持っており、実習施設の調整・依頼、実習全体のスケジュール設定などを行います。他の領域は、学生指導を分担し、実習先巡回などを担当します。

<福祉分野に関する理論と支援の展開>

大学院の科目です。福祉は幅広い分野であり、大きく児童、障害者、高齢者の 3 つに分けて福祉の現状を学びます。学生は毎回のテーマごとに分担があり、事前学修でスライドを作成し発表をします。教員は追加情報などを加え、心理職として支援に関わる場合のポイントを説明します。3 つのテーマの最後に事例を検討し、グループディスカッションやロールプレイで理解を深めていきます。

福祉分野で働く心理職はまだ十分ではなく、新しい分野と言えます。現場からの心理職への期待の声を聞くことも多く、求められる心理的支援は大きいと思います。既に多くの専門職で支えられている福祉の仕組みや支援を受ける方々を理解していくことから、この科目は始まります。単に臨床心理学的な介入をするのではなく、現場をよく理解し、支援を要する方々へのアプローチについて多角的にアセスメントができる人材育成を行います。

<心理支援に関する理論と実践Ⅱ>

大学院の科目です。ここでは、ガイダンス的に代表的な心理療法などを取り上げ、紹介します。公認心理師として働く際に当然知っておくべき知識をコンパクトに提供します。主な内容は、「精神分析的心理療法」、「認知行動療法」、「SST」、「マインドフルネス」、「ソマティックな心理療法」、「ポリヴェーガル理論」、「トラウマ」、「アウトリーチ」等です。心理療法を実践できるためには、それぞれ膨大な時間の学びと訓練が必要です。この点も含め、私の医療現場での実務経験を通して説明します。理論を押さえた後は、精神科医療の現場が主となりますが、心理療法を公認心理師がどのように用いるのかなど、より具体的な話をします。ビデオなどの教材を使い、実際の治療場面を見て学ぶこともあります。

昨今はトラウマ治療への注目が大きく、多くの治療で柱となるポリヴェーガル理論も取り上げています。これは、実際に精神科病院実習に行った学生から学んでいたことが役立ったと報告を受けています。現場で使われている心理療法はどんどん新しいものが入り入れられており、これらにも対応しています。

■ 非常勤講師

2020 年-2025 年 城北高等学校看護科「精神看護学」

2022 年~2025 年 放送大学熊本学習センター客員教授、面接授業「災害支援の心理学」

2024 年~2025 年 尚絅大学「介護現場の心理学」

■ 高校出張講座

2023 年熊本県立宇土高等学校「マインドフルネス」

■ 公開講座

2022年 放送大学「マインドフルネスと心理療法」
2023年 放送大学「臨床的マインドフルネス」
2024年 放送大学「素敵な生活のためのマインドフルネス」

■ 講演会

2023年 保健・教育相談・人権教育合同講演会（熊本県立第一高等学校）「素敵な生活のためのマインドフルネス」

■ 研修会講師

2022年～2024年 合志市地域の見守りサポーター講座「児童虐待と家族問題」

2022年 子育てホットステーション全体研修会講師（熊本市）「がんばりすぎない子どもとの過ごし方」

2022年 学童クラブこうし（合志市）「学童期における児童の発達の理解」

2023年 熊本県市町村保健師協議会研修会及び交流会「マインドフルネスを活かした支援」

2023年 保健主事・養護教諭合同研修会（人吉球磨学校保健会）「気になる子どもと心の健康について」

2024年 メンタルヘルス研修会（石路の里）「ストレスとの付き合い方」

2025年 熊本少年鑑別所研修「児童期における被虐待に起因する心的外傷体験の理解と支援の現状及び課題～ポリヴェーガル理論の視点から」

(2) 教育組織運営

大学院研究科長、こころとそだちの臨床研究所所長

2025年度所属委員会等：

学長室会、教務委員会、入試委員会、内部質保証推進委員会、臨床研究所運営委員会
研究費不正防止委員会、相談員、公認心理師ワーキンググループ

3. 教育の理念

- (1) 理念1 実践力
- (2) 理念2 連携力
- (3) 理念3 豊かな心

4. 教育の方法

教育理念との関係では以下の点を重視した教育方法をとっています。

(1) 実践力について

心理支援のさまざまな技法を獲得するため、実際にやってみることを重視します。声の出し方、表情、姿勢なども対人援助には大事な技術であり、はじめは上手くできなくても、練習をして伸びると伝えます。やってみて自分の中に起きてくることへの感度を高くすることも重要で、さらにそれを言語化できるように繰り返し、訓練をします。心理支援ではアセスメントや面接等の報告書作成等が心理業務の多くを占めるため、レポート等を通し、自分の考えを簡潔にまとめる訓練を行います。

また、実際に知識を活用して考え、適切な行動がとれることを重視します。演習・実習を通し体験から学ぶ姿勢を作ります。次に、体験したことがどの理論に基づくものかを確認し、学びが実践につながるよう

にしています。

(2) 連携力について

多職種連携やチームアプローチ等、これらができることが広く求められる時代になりました。自分の専門だけでなく、異なる専門家の立場や理論背景を理解し、協働できることが望めます。このような他者理解の視点の学びに重点を置きます。コミュニケーション・スキルも重要であり、グループワーク、発表等を通じた発言力、傾聴力を高めるように指導します。

(3) 豊かな心について

豊かな心とは、感恩奉仕の理念に重なるものです。もっと広く、人や世の中の様々な出来事、あり様に絶えず興味関心を持ってほしいと思います。そのためにアニメやドラマ、映画、小説などを題材に講義を工夫します。ニュースに関連して心理学のテーマを考えてもらうこともあります。多くの人に関わる仕事をするためには、多彩な価値観や考え、それぞれの興味関心について自分の心の扉を開けておくことが必要であることを、伝えるようにしています。

5. 教育改善のための努力

履修している学生が見通しを立てて学修ができるように説明を行います。講義の全体像を示し、学生の習熟度を見ながら講義内容を微調整します。また、質疑応答を行うことで、質問をした学生だけではなく、他の学生の学びにも役立つようにします。ロールプレイなど、実践的な内容においては、具体的な説明と共に教師自身が手本を示すようにしています。

(1) 改善努力1 授業評価アンケートと授業改善報告書

前回事前事後学修時間の不足が指摘されており、事前事後学修の指導は不十分であったことから、授業計画の見直し等を行っています。大学院の授業では、事例発表や与えられたテーマを調べ発表するなど、事前学修に多くの時間を要する科目の割合が増えています。

(2) 改善努力2

グループワークが少ない点について、心理演習Ⅱや大学院の科目において、グループワークの時間を多く取り入れるようになりました。

6. 教育の成果・評価

学生の評価は以下の通りです。

- ・事例を交えた説明がわかりやすかった。
- ・実践的なお話も知ることができて大変興味が深まりました。
- ・新しい知見をふまえた授業をしていただき、臨床に役立つ学びでした

7. 今後の教育に関する課題と目標

公認心理師養成について本学では2023年度に大学から大学院までのカリキュラム全てが整いました。カリキュラム見直しのなかで、大学の心理実習の内容をスリム化すること、実習までの準備に時間をかけ

丁寧に行うことなどの検討をしているところです。大学院が昼間開講になり、学内実習学外実習の必須時間数が増えたことで、教員の担当時間も増加しました。

2023年度、2024年度の公認心理師国家資格試験では、2年連続100%の合格率でした。これらの実績をできる限り維持すること、専門性の高い公認心理師を送り出すことが目標です。そのために、教員自身も日々研鑽を行っていきたいと思います。

8. 参考資料

(1) 担当科目シラバス

(2) 授業評価アンケート結果